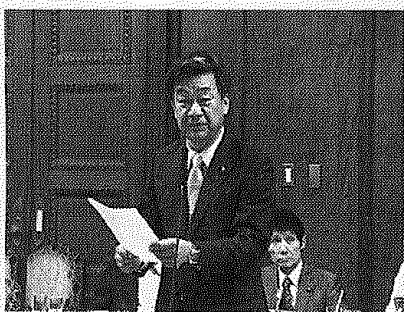


平成30年6月6日(水曜日)

7・5～8兆円規模は必要

当初・補正合算の公共投資

委員会で決算立委員



足立敏之参議院議員は、4日に開かれた参議院決算委員会での質問に初めて立ち、日本のインフラの整備水準や、必要な公共投資額に切り込み、「当初予算と補正予算を合わせて7・5兆円から8兆円の規模は必要だ」との持論を展開した。足立議員は、98年度を

ピークに日本の公共投資は削減が続き、現在はその4割にまで落ち込んでおり、この20年間、「日本は公共投資を半減させ

て、GDPを先進国の中で唯一、減らしている国。

日本以外の先進国は、公

共投資を伸ばし、GDP

も大幅に伸ばし経済成長

を果たしている」と指摘。

日本経済の発展には公共

投資を伸ばし、インフラ

の整備水準を先進国並み

に引き上げる必要がある

ため、その必要性についての認識を、国土交通省

と財務省に問うた。

国交省の秋本真利政務官は、「生産性向上や安全

確保が重要であると考え

ている。厳しい財政状況

の中ではあるが、必要な

公共工事の予算の確保に

努める」と答弁。

財務省の木原稔副大臣

は、確かに「当初予算ベース

でピークと比べ「4割減」

なっているものの、その後、

災害や経済情勢を踏まえた

追加的な財政需要に補正予

算で対応してきた」とを説

明。今後の公共事業関係費

に引きと確保していくが

かりと確保していくが

安心の確保といった、これに対し足立議員

は、現在、新たな骨太方針の議論が進む中で、「ブ

ライマリーバランスの黒

字化目標の撤廃により、

アベノミクスの主要な柱

である財政出動を図り、

的・持続的な公共投資の

確保が重要であると考え

ている。厳しい財政状況

の中ではあるが、必要な

公共工事の予算の確保に

努める」と答弁。

補正予算を合わせて7

・5兆円～8兆円規模を

確保する必要性を指摘し

た。足立議員はこのほか

に、地球温暖化やインフ

ラの老朽化についても質

問し、インフラ整備をし

つかり進めていく必要性

も指摘した。